

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500024		
法人名	株式会社M. C. C		
事業所名	グループホーム香雪		
所在地	周南市東一の井手750-8		
自己評価作成日	平成24年2月26日	評価結果市町受理日	平成24年7月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護師による健康管理。職員による病院受診の送迎と付き添い、主治医との連携、ケアへの活用を行っている。自治会に加入し、地域活動への参加。地域の演劇ボランティアや保育園児の慰問等を受け入れている。運動会や忘年会、ソーマン流しや納涼祭など季節に応じて様々な行事を企画し楽しく生活できるよう支援している。

居室での転倒を未然に防ぐためのセンサーの設置やフロアの死角での転倒を防ぐ為、ミラーの設置をしている。体が不自由な方でも入浴し易い安全回転盤やトイレ内に前傾姿勢支持グリップなどを設置している。

毎月、ご家族へ行事の案内、スナップ写真、心身の状態を記したお手紙、バイタルや食事摂取量・入浴の有無などを記した生活記録等を送付している。

家族会を開催し、ご家族同士の親睦を深め、ご家族から意見や要望をお聞きし、運営に反映するようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念を大切に、理念に沿ったケアに取り組まれています。外出の機会をつくり、利用者が地域の中で暮らし続けられるように、利用者一人ひとりの笑顔を大切にされた寄り添うケアを提供されています。地域のボランティアの訪問も多くあり、利用者とのつながりを継続して地域の中で暮らし続けられるように取り組まれています。職員を育てる取り組みとして、内部研修は、認知症ケアと一般研修の2つに分けて計画されており、毎月、研修を実施しておられます。外部研修への参加の機会の提供や、職員も自己目標を立て、6ヶ月毎に評価し、目標を持って働けるように取り組まれています。歯科検診を年2回行い、定期的に歯科衛生士がケアに入ることで、かむ力が落ちないように、機能維持に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を各ユニット入口に掲示し、職員への周知を図っている。またミーティングにて毎年理念の見直しを行い、理念に込めた想いや意義を再確認して共有・実践に繋げている。	地域の中で、地域の人や自然とかかわりながら暮らし続けられるように理念をつくり掲示して、理念を共有し、毎年、理念の見直しを行い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃活動や文化祭などへ参加している。地域の演劇ボランティアや保育園児の慰問、中学生の体験実習の受け入れなどもあり、地域との繋がりを築いている。	自治会に加入し、職員は清掃活動に参加し、利用者は地域の文化祭等に参加している。毎月、地域の演劇ボランティアや保育園児の訪問や、中学生の体験学習などがあり、地域とのつながりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者のご家族、知人、民生委員、近隣の方の施設見学等を通じ、認知症の方の理解や支援方法を地域の方々に発信している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価への取り組みを行い、外部評価を活かして改善に向けて取り組んでいる。また外部評価の結果については、御家族にお知らせすると共に運営推進会議でも説明・報告を行っている。	評価の意義を理解し、自己評価を職員全員で取り組んでいる。自己評価や外部評価を職員の意識の共有や、振り返り、見直しなどとして捉え、サービスの向上に活かすように具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月に1回)に開催し、利用者の状況や行事の様子、運営状況などを説明している。出席者からの意見は取りまとめて検討を行い、今後のサービス提供に反映出来るように努めている。	地域住民代表、民生委員、市担当職員、他のグループホーム職員、介護相談員、第三者委員、家族、施設長、管理者で2ヶ月に1回開催している。活動報告、利用者の状況、行事報告をして意見交換を行い、重度化した場合の対応についてなど話し合い、サービスの向上に活かすように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当職員には運営推進会議に出席して頂いている。こちらの現状を伝えると共に、意見・助言を頂いている。	運営推進会議時に、事業所の実情やサービスの取り組み等を伝え、意見や助言をもらい、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を行うことで、代表者及び全ての職員が身体拘束について正しく理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	外部研修や内部研修で、全職員が正しく理解し、抑制や拘束の無いケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修において、定期的に職員全員が学ぶ機会を持ち、認識・理解する事によって虐待防止の徹底を図っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度を利用されている方もあり、内部研修において、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学ぶ機会を設けている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を元に質疑応答を重ね、相互理解を深めている。契約の締結、解約又は改定の際は、十分な説明を行い、同意書に署名・捺印を頂くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、意見や要望があれば、職員全体で話し合っ運営に反映させている。また苦情相談窓口を設置し、常に意見・要望を受け付ける体制を整えている。	年2回の家族会や、運営推進会議時、面会時などに意見や要望を家族から聞いて、職員間で話し合いをしている。苦情相談窓口を設置し、処理手続きを定め周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや職員会議など、職員から意見や提案を聞く機会を設け、検討を行い、運営に反映させている。また申し送りノートには、自由に意見を書き込めるようになっており、意見はその都度検討を行っている。	職員会議やミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、年2回職員面談を行っている。「申し送りノート」に意見や要望を自由に書き込めるようになっており、出た意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の自己目標の達成状況、役職者の評価を踏まえ、定期的に昇給を行っている。また職員の勤務に対する不安や悩みなどの相談を受け付け、働きやすい環境作りに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は自己目標を設定し・定期的な見直しを行い、上司はその実績評価や助言を行って、やりがいを持って働けるようにしている。また外部研修への積極的参加を促し、ケアの向上に努めている。	認知症ケア・一般研修と2本立ての年間計画を立て、毎月の職員会議で内部研修を行っている。外部研修は参加の機会を提供し、ケアの向上に努めている。職員一人ひとりが自己目標を設定し、6ヶ月ごとに達成状況の確認を行い働きながらトレーニングしていくことを進めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近郊の他グループホームと運営推進会議に相互に出席したり、グループホーム連絡協議会主催の合同研修会に参加する事で、外部との交流・意見交換を行い、日々のサービスの向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に御本人、御家族と面談を行い、不安や要望などをお聞きして、ケアに反映させるようにしている。また、ご家族の協力を得ながら、徐々に施設での生活に馴染めるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族と面談を行い、不安や要望などをお聞きし丁寧に説明を行う事で、少しでも御家族の不安が解消されるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・御家族の現状把握に努め、本当に必要なサービスは何かを検討・提案している。また必要に応じて特別養護老人ホームや療養型の病院など、他の福祉医療機関についての説明を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・調理等、日常生活において御本人のしたい事・出来る事を一緒にしながら、互助生活をしている。実際教わる事も多く、相手に感謝の気持ちを伝えることを忘れないようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や外食、ソーメン流しなどの施設行事には、御家族にお便りを出し、参加を促している。また、いつでも気軽にお越し頂けるよう、面会時間の希望には、柔軟に対応している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族との面会や、帰省・外食・お墓参りなど、気軽に出掛けられるよう、御家族と連絡・調整を行っている。	知人や家族の面会、家族の協力を得ての外出、外食、墓参りなどを行っている。地域に出かける行事が多く、事業所の中で閉じこもらないように、馴染みの場所に出かけて、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。理念に沿ったケアが提供されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	運動会、忘年会、カラオケ大会など、互いに親睦を深める事の出来る行事を多数計画・実施している。また利用者同士の個々の関係を把握し、食事や行事の際の席の位置にも配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為、退所される方などの退院後の入所先の斡旋や再入居の相談を行っている。また退所後も必要に応じて個別に相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から御本人の思いや希望の把握に努め、ケアカンファレンス等においてその人の望む暮らしについて、利用者本意に検討している。	日々の関わりの中で、一人ひとりの言動や表情から思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合は家族に相談し、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人・御家族をはじめ、面会に来られた方からの話を基に、ご本人の生活歴や人柄などを察し、それを踏まえ、ケアに活かすようにしている。また、入居前のサービス提供事業所とも連絡を取り、そのときの状態も把握するようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活に当てはめず、一人ひとりの生活ペースを尊重し、その人らしい生活が維持できるよう配慮している。また今までできたことは継続してできるよう、自立支援に心掛けている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・御家族・主治医とも相談しながら、その人らしさを維持し、自立した日常生活を送ることができるよう、ケアカンファレンスで検討し、介護計画に反映している。	本人、家族から意見を聞く他、主治医とも相談し、ケアカンファレンスで検討し、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。ヒヤリはつが起きた場合は介護計画を見直し、計画に反映している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別の介護記録・申し送りノートなどを活用し、職員間で情報を共有している。またケアカンファレンスにおいて、介護計画の評価・見直しを行い、以降のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時には、要望に応じて付き添いを行うと共に、入院時には、御家族が遠方の場合や事情によって、洗濯物や買い物などにも対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	演劇ボランティアや保育園の慰問、忘年会では、利用者自らも歌唱や余興に参加している。運動会では、中学生にも参加している。また、カラオケボックスへ出掛けたり、日々行事に向けて歌の練習をしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・御家族の意向を尊重し受診すると共に、要望に応じて付き添いを行っている。体調不良時には、早期受診に努め、医療機関と連携して早期回復に取り組んでいる。受診結果は御家族と全職員へ申し送り、今後のケアに活用している。	本人、家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。受診は家族の協力を得て職員が付き添い、身体状況をかかりつけ医に報告し、適切な医療を受けられるように支援している。年2回歯科の定期検診があり、定期的な口腔ケアが行われている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは、勤務以外でも24時間連絡がとれる体制をとっており、夜間等において利用者から体調不良の訴えやバイタルの異常・特変などがあつた場合でも、看護師と連携し適切な対応がとれるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成し、病院担当者へ説明をしている。入院中も御本人への面会、御家族や病院担当者と定期的に連絡を取り、経過や今後の対応について情報交換をしている。退院時には病院から情報提供書を頂き、その後のケアに役立てている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、主治医・御本人・御家族と相談し、そのときの対応について計画を立てている。また、夜間・休日等の急変時の対応について、定期的に職員全員への周知を図っている。	重度化や終末期に向けた方針については契約時に本人、家族に説明している。実際に重度化した場合は本人、家族、主治医と話し合い、事業所のできることを説明しながら共有し支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	職員全員が入居者一人ひとりの心身状況を把握し、事故の防止に努めている。ヒヤリハット報告については、検討会議を行って再発予防に努めている。また、近隣の消防署に協力を頂き、定期的に救急救命講習を実施している。	ヒヤリはっと、事故報告書に記録して、検討会議を行い、介護計画に反映させて、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。救急救命講習を定期的に通い、応急手当や初期対応の訓練を実施している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、定期的に内部研修や防災訓練を行うことで、周知徹底を図っている。また訓練の際には、消防署の立会いの元、昼・夜を想定した訓練を行うと共に、近所の方にも参加を頂いている。	防災マニュアルにそって、定期的に研修し、昼・夜間想定訓練を行い、地域の人にも参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳の保持とプライバシーの確保について内部研修を行っている。個人の居室に入るときには、丁寧に説明するようにし、ご本人のできないことについては、自尊心を傷つけないよう、さり気ない介助を心掛けている。	マニュアルがあり、内部研修を行い、職員は理解している。利用者の尊重とプライバシー保護につとめ、日々の言葉かけや対応に配慮した支援をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションへの参加や生活の中での役割作りなど、ご本人の負担にならないよう配慮している。また、衣服の選択などは、御本人の意向を尊重し、その人らしさが維持されるよう気をつけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の流れに当てはめず、一人ひとりの生活リズムを大切に、日々を穏やかに楽しく過ごせるよう支援している。その方の表情や言動から思いを察して、安心できる声かけを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入や、訪問美容師による毛染め・カット、美容院でのパーマなど、御本人が希望するサービスを受けることができるよう、支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の食材や外での食事など、楽しく食事ができるよう、花見でのお弁当や外食、夏のピヤガーデンなどの行事を行っている。家事のできる方には、料理や盛り付け、後片付けなどを職員と一緒にやっている。	三食とも事業所で調理し、畑で収穫した野菜をおかずに加えたり、下ごしらえや盛り付け、片づけなど利用者と職員は一緒に行っている。おやつづくり(ホットケーキやおはぎ)、季節行事のお弁当や外食など食事を楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量と水分摂取量を生活記録簿に記録し、職員間で情報を共有している。摂取量の少ない方、自立摂取の難しい方には、自立度に応じた介助を行い、必要な栄養を摂取できるように努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は見守り、出来ない方には、声かけ・誘導を行い、状態に応じた口腔ケアを行っている。半年に1度は、訪問歯科による口腔内のチェックを行い、指導も受けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、適時にトイレ誘導を行う事で、排泄の失敗を極力減らすように努めている。現在ほとんどの方が、トイレでの排泄が出来ている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は外部の栄養士により栄養管理がされており、必要な栄養や食物繊維等はバランス良く含まれている。職員は状況をみながら水分補給を促したり、レクリエーションや体操など適度な運動を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望や体調に応じて入浴できるよう配慮している。入浴中は、利用者との会話や歌唱など、コミュニケーションを図り、その時間を楽しめるように配慮している。季節に応じて柚子湯や入浴剤も活用している。	毎日入浴が可能で利用者の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。入浴中は利用者とのコミュニケーションを図りながら、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、それに合わせて居室で休息がとれるよう支援している。睡眠時は定期的に巡視し、状態を確認している。また快適に過ごせるよう、エアコンや加湿器を活用し、室温・湿度にも配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を提示し、効能・副作用について職員全員が把握するようにしている。また、薬はできるだけ一包化・名前を明記し、誤飲防止に努めている。服薬確認は、職員2名で行い、確実な服用を心掛けている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の面談にて、生活歴や趣味、要望などをお聞きし、一人ひとりの残存機能を活かした生活の中での役割作り、外食やカラオケなどの気分転換や楽しみ事など、張り合いの持てる生活が送れるよう支援している。	畑仕事や料理、生け花、音楽療法、裁縫、お茶、カラオケなど一人ひとりの希望やできることに合わせた楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いのある生活が過ごせるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人の希望に応じて散歩や買い物などを支援している。またお寺参りや美容院、自宅の草刈りなど、御家族等との連絡・調整を図って行っている。	その日の希望に沿って、天気の良い日は散歩や買い物、お寺参り、美容院、自宅の草刈りなど家族の協力を得て戸外に出かけられるように支援している。毎月外出行事が組まれている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	普段は事務所で預かりしているが、買い物の際など、希望に応じて御本人に手渡し、御自分で支払えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて御家族と連絡を取っている。電話の際、難聴などがある場合には、職員が間に入って取り次ぐようにしている。また手紙のやりとりも自由に行われており、希望があれば代筆や投函なども行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や踊り場には季節に応じた飾り付けを行っている。リビングにはリラクゼーション音楽を流し、行事の写真多数飾っている。リビングの窓からは眺望も良く、四季折々の景色を見ることができる。	リビングは明るく広々として、窓からは自然の移り変わりを眺めることができる。和室やソファ、テーブル、椅子、テレビなどが配置しており、壁面には行事の写真を貼り、玄関や踊り場には季節毎の飾り付けをして、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの座る場所など、それぞれに落ち着くお気に入りの場所があり、思い思いに過ごしておられる。リビングの側には和室もあり、気の合った方同士で会話をしたり、独りになれるスペースとしても活用している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の思い出の品や御家族の写真など、私物の持ち込みを推奨している。御本人の希望を考慮してレイアウトを行うなど、利用者が落ち着ける環境作りを支援している。	家具や仏壇など身の回りの品が持ち込まれ、安心して過ごせるように、家族の写真が飾っており、落ち着ける環境をつくり、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力を把握し、ご本人にとって難しい事に関しては、自尊心を傷つけないよう、さりげない介助を心掛けている。また施設内はバリアフリーで、安全に生活を送るのに、適した環境となっている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 香雪

作成日: 平成 24年 7月 1日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	利用者の機能維持・低下予防に対する取組が不十分がある。	機能維持・低下予防への取り組みにより、御本人らしい生活が継続して行えるようにする。	全職員が機能維持・低下予防の重要性を再確認するとともに個別の状況を把握し、ケアカンファレンスなどで機能訓練計画を作成・実施していく。	3ヶ月
2	36	避難訓練の齊に消防署より手順の不備・避難のスピードアップについての指摘があった。	日中・夜間に関わらず全職員が対応を熟知し、利用者の敏速な避難誘導ができるようにする。	防災マニュアルの見直し。内部研修に取り入れて、職員全体が君給仕の対応を把握し、より迅速・安全に行動できるようにする。	6ヶ月
3	11	家族会への参加者があまり増えていない。	なるべく多くのsんかを得て、ご意見・要望を広く受ける事で運営に反映していく。ご家族同士が意見交換や思いを共有する事で親睦を深める事ができる。	御家族に家族会の趣旨・意義を説明を行うとともに、積極的な参加をお願いしていく。	次開催
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。